

海外で貴重な体験

「空の日」中学生派遣事業

次世代を担う中学生を海外主要空港に派遣し、航空と空港への関心と理解を深めてもらい、視野の広い若者を育成することを目的とした事業で、空港周辺の中学生を対象にしており、神崎町からは大嶋英之君と渡辺桃香さんの2名が参加しました。

参加者は、7月29日から8月3日までの6日間シアトルのボーイング社工場や、ロサンゼルス機の機内食工場などの見学をしてきました。この2人の体験を紹介します。



大嶋英之くん

私は、今年の夏休み中に、アメリカに派遣学習をしてきました。出発の日が近づくにつれ、「俺、大丈夫かな」と、とても心配になりました。出発当日、不安がたくさんある中で出発しました。長いフライトを終えて、アメリカの上空に入ると、大きな山や、湖などがあった、すごく楽しい気分になりました。そして、不



安は消えていました。

初のアメリカは、いろいろな発見や勉強になる事がたくさんありました。その中で私が一番大事だと思った事は、意思表示の大切さです。英語が話せないから

といって、消極的にならず、ジェスチャーや単語をつなげて、積極的に話す事が大事ということがわかりました。

この派遣学習では、いろいろな事を学びました。その経験を、自分のプラスになるように役立てていきたいです。



渡辺桃香さん

私は、こんなに素晴らしい研修に参加させて頂くことから、一生懸命学習して来なければ。と自分に言い聞かせ、気持ちを入れ替えてこの日を迎えました。

出発の日。大きな期待と不安で私の頭の中と胸の中は今にも爆発寸前でした。空港に着いたときは正直、プレッシャーから逃げ出したい気持ちでいっぱいでした。しかし、大きな音と共に滑走路から機体が浮いた瞬間、なんとも言えない感



動が込み上げ、不安は一気に消えました。空の色といえば誰もがすぐに青と答えるでしょう。ですが、私の目で見えた空はすじ雲と一体となり、青一色で表すには勿体無いほど鮮やかで素晴らしいものでした。

そして、私の一番の思い出はキャビンアテンダントの仕事について近くで学んだことです。普通では入る事の出来ないギャレーの中まで見学させて頂いて、とても参考になりました。ギャレーの中には乗客を迎えるための様々な物が用意されていて、まるで小さなレストランのキッチンのようにでした。制服やエプロンもお借りしたり、ジャンプシートに座らせて頂いたり、少しでもキャビンアテンダントの気分を味わう事が出来ました。こんな幸せな時

間は無かったと思います。

空港では皆一人一人、全ての人が責任やプライドを持って仕事をしていることが分かりました。お客様が安全で快適な空の旅になるように、命を預かるパイロットの前にも、機体の安全確保のために工場で働く人、季節によって美味しい機内食を提供する人、それぞれ働く現場は違っていてもスタッフ一団となり、その日々の努力で素敵な空の旅になる事を学びました。

